

●シンボルプロジェクト

私たち津万地区住民が、主体となって取り組むことが可能で、住民自身にも、来訪者にも好まれる効果的な事業を「シンボルプロジェクト」として次のとおりまとめました。

■田園空間ゆうゆうプロジェクト

●プロジェクトの概要

津万地区のふるさとの宝である歴史的資源、自然的資源の保全と活用、住民の健康の維持増進、地区的レクリエーション開発にもつながるようウォーキングコースの整備を行い、拠点の活用を進め、住み続けたくなるふるさとづくりにつなげていく。併せて「都麻乃郷」のいわれを大切にし広く知らせていく。

また、これらの推進に当ってはスポーツクラブなど既存の取り組みを効果的に活用していく。

○いつ (when)

平成19年度から

○どこで (where)

- ①西林寺・あじさい園・西脇公園一田園空間博物館総合案内所（道の駅）・天神池スポーツセンター—日本へそ公園散策コース（①コース）
- ②西林寺周辺（城ヶ辻）の里山散策コース（②コース）
- ③加古川沿いの散策コース（③コース）
- ④八日山周辺水路沿い散策コース（④コース）《今後の課題》

○だれが (who)

地区住民、企業、田園空間博物館総合案内所（道の駅）等関係者

○なにを (what)

既存資源の健康増進やふれあい活動への活用を検討し、安全なウォーキングコースの選定と安全向上方策を検討する（テーマ別にコースを設定。他地区からの人も受け入れるようにする。）。

○なぜ (why)

- ・健康の維持増進と自然環境・原風景の保全、ふるさと意識の醸成、活性化
- ・田園空間博物館総合案内所（道の駅）の活用は大切であり、津万地区の拠点をつくりたい。
- ・神社仏閣、大木が多い。自ら歩くことで楽しむことが大切。健康づくりにもつながる。
- ・人が集まる施設があるのに、住民が活用していない。活用したい。
- ・津万地区のよさを知ることができる。
- ・人が地区内を歩くことで、子どもの見守りや高齢者の声かけなど、防犯等も兼ねることができる。

●拠点活用の考え方

①西林寺

・東屋までの道を整備する。草刈りを実施する。春夏秋冬にウォーキングを計画。桜の園が目玉。紅葉もいい。

②田園空間博物館総合案内所（道の駅）

・様々な教室を開催する（地域の食材を使った料理教室など）。スタンプラリー、案内板づくり、放置自転車の活用（課題として、周辺道路の整備や情報発信が必要、マスコミも活用する。）

●コースづくりの考え方

①西林寺—田園空間博物館総合案内所（道の駅）—日本へそ公園散策コース（①コース）

は、既存の農道などで交通量が少ない区間などを調査し、周辺の土地が変更される可能性があれば、歩道整備などを要望するほか、沿道の植栽、フラワーポットの設置などは沿道の企業、権利者が率先して行うよう促していく。沿道に案内板の設置や適切な場所への休憩所設置（要望事項）などを進めて、快適な歩行者空間をつくりだしていく。

②西林寺周辺の里山散策コース（②コース）

は、里道の調査を行い、まず東屋までの道を通れるようにする。その後、北播磨県民局の計画などと調整を行い、実現できるところから住民参加の整備を迫及する。

③加古川沿いの散策コース（③コース）

は、調査を行い、自然と親しむ整備の可能性を検討する。

④八日山周辺水路沿い散策コース（④コース）

は、調査を行い、水路沿いに自然型護岸の整備など、生き物にやさしい環境づくりをはかる。

※本文中の①～④のコースは前ページの土地利用構想図を参照してください。



まちづくり計画スタート！（第1回委員会）



ワイワイ！ガヤガヤ！ワークショップ



まち歩きでふるさと再発見



住民説明会で計画書を説明



市長へ計画書を提出



西脇市津万地区まちづくり計画 よっしゃ！やるで!!生き活きTUMA



●津万地区まちづくりの目標像

人が元気、自然が元気、まちが元気な私たちのふるさと
「よっしゃ！やるで!!生き活きTUMA」

私たちの住む津万地区は、かつて「都麻乃郷」と呼ばれた田園地帯。歴史と自然に恵まれた地域です。

近年は国道175号のバイパス計画が進行し、空閑地は減少しています。防災面の対策、高齢者や子どもの安全対策、住宅地の環境を守る対策など、課題は大きいものがあります。

安全・安心で魅力のある環境を守り育て、次の世代に残していくことが私たちに求められています。

以上のようなことを念頭に置き、これからまちづくりの目標として、まちづくり計画検討委員会の名称そのまま目標像として掲げます。

●よっしゃ！やるで!!生き活きTUMAの目的と役割

◆西脇市が推進する「地区からのまちづくり」にかかる津万地区のあり方を考える、津万地区まちづくり計画を策定する検討委員会です。

◆市民と行政が一緒になって、それぞれの責任と役割を分担しながら、提案の実現に向けた協働のまちづくりの母体づくりを進めます。

1 支えあい、安心して暮らせる まちづくり

目標 ともに支えあい、笑顔で安心して暮らせる
まちづくり

<現状と課題>

- 西脇病院をはじめ医療・福祉施設は整っており、利便性に対する評価は高いものがあります。
- 日常的な高齢者を支えるボランティア活動が進んでいますが、当事者同士の交流の機会が望まれます。また、子ども会や老人会などと一緒に活動を継続していくことが望されます。
- 地域福祉計画の実践と併せて、この活動を充実させていくことが考えられます。

<取り組みの方向性>

- ①多世代交流機会の充実
 - ・多世代が交流できる機会を充実します。
 - ・地域内の人の輪を広げる取り組みを推進します。
 - ・児童などを対象とした、絵本の読み聞かせなどを進めます。

- ②支えあい活動の推進
 - ・ふれあいサロンなどの取り組みを充実します。
 - ・日常的な声かけ運動を推進します。
 - ・NPOなどと住民が関われる可能性を追求します。

- ③健康づくり運動の推進
 - ・運動講座などの機会を増やして、健康の維持・増進、介護予防につとめます。
 - ・八日山、西脇公園ハイキングコースなどを検討します。
 - ・介護保険モデル事業の率先的な活動の実施につとめます。

- ④防災緊急対策の実施
 - ・災害発生時の連絡網の確認と、防災リーダー研修を行います。
 - ・地域内的情報収集体制を構築します。
 - ・高齢者や障害者の避難支援のあり方を検討します。
 - ・AED（自動体外式除細動器）の取り組みの充実につとめます。

2 生活基盤が充実した まちづくり

目標 安心して移動でき、魅力を向上させる
まちづくり

<現状と課題>

- 国道175号バイパスによる地区の分断、景観上の問題発生も懸念されます。
- 危険な交差点もあり、安全性確保が望されます。
- 地域の円滑な移動手段の確保が望れます。
- 175号バイパス計画地の周辺では、景観上課題のある作業所などの立地もみられます。
- バイパス利用者に魅力を感じてもらえるような方策が望されます。

<取り組みの方向性>

- ①175号沿道のあり方
 - ・側道などの安全性向上のため、歩道の十分な確保、横断のための安全な歩道などを要望します。
 - ・沿道の土地利用を景観に配慮するよう検討します。また、景観上問題がありそうな場合は、景観対策をお願いします。

- ②道路の安全性向上
 - ・地区内の危険な交差点の安全性確保の取り組みを進めます。
 - ・通学路となっている交差点については、運転者の注意を喚起する工夫を検討・実施します。

- ③交通マナーの向上
 - ・生活道路ではスピードを出し過ぎないよう配慮します。
 - ・見通しの悪い道路沿いは、植木や生垣がはみ出さないよう手入れをします。
 - ・路上駐車をしない取り組みを進めます。

- ④土地のルールづくり
 - ・新たな開発に際して、周りに迷惑が及ばないよう、対策をお願いします。また、協定などの検討を行います。

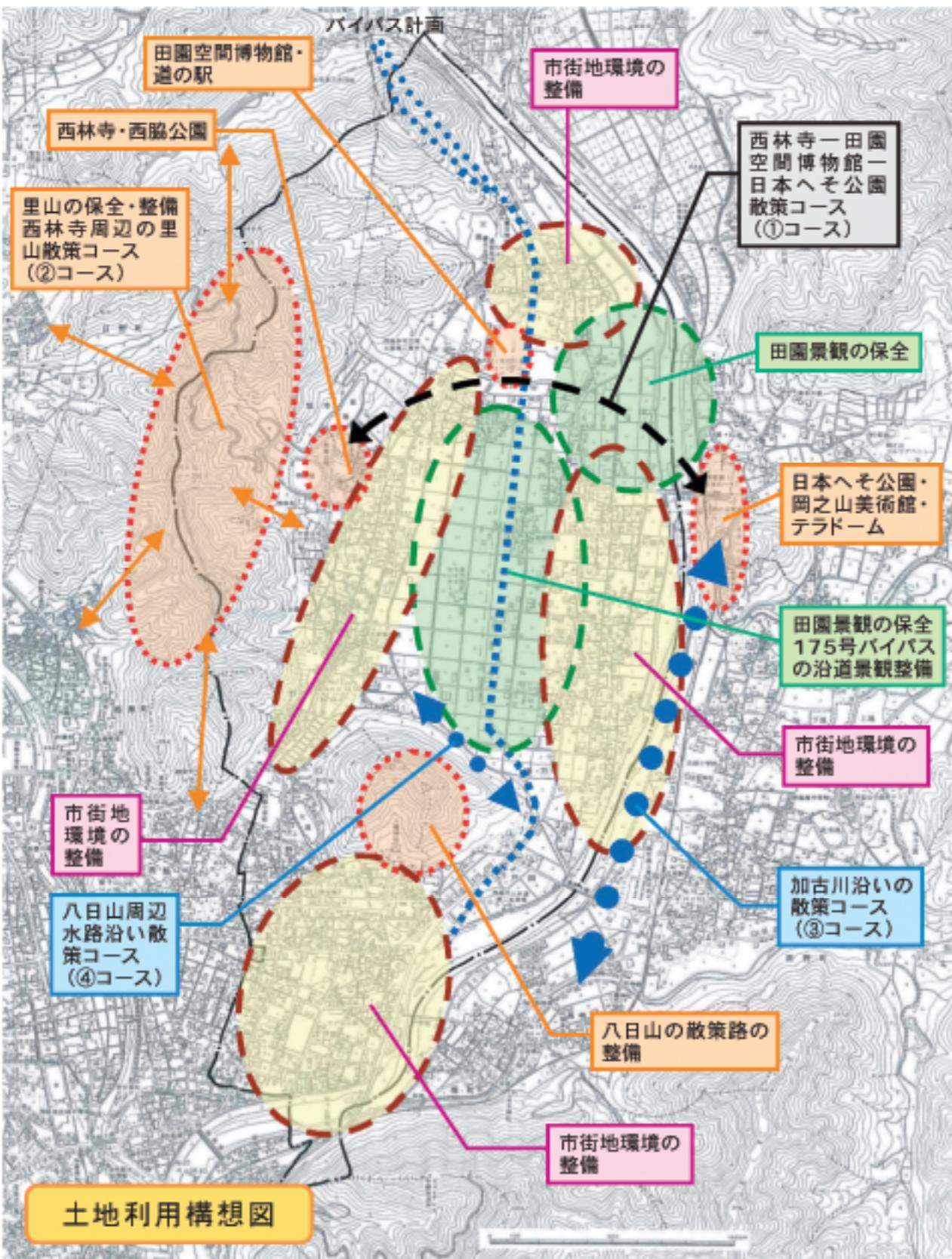
- ⑤安全な移動手段の検討
 - ・高齢者や障害者などの移動手段確保のための検討を行います。

人が元気、自然が元気、まちが元気な 私たちのふるさとの実現のために…

「よっしゃ! やるぞ!! 生活活性 TUMA」

津万地区のまちづくり目標像を実現するために、「現状と課題」とその解決策である「取り組みの方向性」を4つの柱にまとめました。

また、このまちづくり計画に基づく地区内の整備概要とシンボルプロジェクト(裏面参照)を下記の土地利用構想図にまとめました。



3 活気あるまちづくり

目標 毎日が生き生きとした、元気のある
まちづくり

<現状と課題>

- 商業施設が充実しており、商業利便性に対する住民の評価は高くなっています。
- 歴史的資源が多く、地域の歴史的な雰囲気を高めるものとなっています。
- 地区的歴史的資源や観光資源同士を結ぶ案内板などはないため、通過客が多いことが考えられます。
- 城ヶ辻は他地区からの遊歩道整備の可能性があり、ルートを検討することも考えられます。
- 高齢者の健康づくりに、参加しやすい工夫や介護防止などのための対策が望されます。

<取り組みの方向性>

- ①歴史的資源などの活用
 - ・歴史的資源を紹介する案内板の整備など、地域の歴史を学ぶ取り組みを推進します。
 - ・使用していない施設の再利用について検討します。
- ②ウォーキングコースの検討
 - ・地区の歴史的資源や加古川をめぐるウォーキングコース（またはサイクリングコース）の実現性を検討します。
- ③散策路づくり
 - ・城ヶ辻をめぐる散策路、水路沿いの山道周辺の散策路づくりを検討・実施します。
- ④マップ・案内板づくり
 - ・地区の自然、歴史を学ぶ散策マップや案内板を作成します。
- ⑤スポーツクラブ21の取り組み充実
 - ・スポーツクラブ21の取り組みを広げます。また、高齢者の健康維持や介護予防の観点からも検討し実践します。

4 自然環境の保全・活用を進める まちづくり

目標 みんなで守って育てる、うるおいある
緑と水辺づくり

<現状と課題>

- 八日山、寺山、加古川があります。小規模な水路が多く、水生生物も多く生息しています。
- 地区的水はおいしいことで知られています。
- 地区内にはネジバナなどの植物が自生しているほか、ガーデニングをしている住宅もあります。
- 上野の八日山から見える「逆さ富士」は、地区の個性をかもし出すものとなっています。
- 加古川は利用されていないようです。台風の影響で堤防の傷みが大きいところもあります。
- 大野公園西の山は、崖くずれの危険性があります。
- 西脇病院裏手の桜並木は保存されています。
- ごみの分別回収が徹底されていません。

<取り組みの方向性>

- ①加古川に親しむ場づくり
 - ・加古川河川敷に遊歩道やサイクリングロードなど可能性を検討します。
 - ・水生生物の調査や水辺をいかしたイベントを実施します。
- ②花いっぱい運動の展開
 - ・公共的施設と連携して、花にあふれたまちづくりを推進します。
 - ・西脇病院裏の桜の保存につとめます。
 - ・175号バイパス沿道の街路樹植樹をお願いしていきます。
- ③ごみの分別回収
 - ・ごみの分別回収のため様々な場で啓発研修をおこないます。
- ④水環境を守る個人の対応
 - ・家庭排水を汚さないように配慮します。
 - ・貴重な水道水を無駄にしないよう、節水につとめます。